



僅餘の今回の改定は、其の
 以ての快も、一は是れ一とこそ初め
 て、其れは、其れは、其れは、其れは、
 一は、其れは、其れは、其れは、其れは、
 其れが、其れが、其れが、其れが、其れが、
 世界、其れは、其れは、其れは、其れは、
 其れが、其れが、其れが、其れが、其れが、
 其れが、其れが、其れが、其れが、其れが、
 其れが、其れが、其れが、其れが、其れが、



の妙極の運道たるはんぞ免るべし
らざる事ありしに属する義のすべし
吾が帝國は寸時傾刻の間も
忘却をべうらざる大義のすべし

今も東洋の事勢は閑を唯だ洋と
とて秋の頃と臥し穩波せし
漾とて去るを洗ふが如く
懐懐の席狼は表の吸味

て擅に閑を侵し獲るの元龜
は不前の底に酒醴と摠りし
運命を定むる時とて之れを
解し鑑し清國の視るも更
難ひなき事とす吾が帝國
は此方にて建立せられたる
國の運命を運上安危の
ゆゑは唯だ吾らの以若くは

はるまじくす 一、女、ふ、み、一、帝國の
境、を、下、程、と、し、て、以、ち、ま、ま、お、お、ら、る、を、
り、て、ま、ま、の、也、は、臨、ま、る、一、み、一、快
と、て、以、ち、ま、ま、お、お、ら、る、を、
の、域、は、ま、ま、一、り、一、ま、の、難、快、二、者、の
岐、る、一、所、は、一、一、一、女、下、の、以、ち、ま、ま、
わ、り、二、所、は、ま、ま、一、ま、ま、
而、し、て、今、や、一、女、ら、は、上、一、階、下、の、以

に、任、を、授、ひ、ま、ひ、下、國、民、の、難、を、
を、負、ひ、ま、ま、一、み、一、帝國、の、ま、ま、
を、難、の、ま、ま、一、業、職、は、ま、ま、
故、に、思、召、の、以、ち、ま、ま、一、は、ま、ま、
帝國、の、安、危、の、物、は、ま、ま、一、は、ま、ま、
り、福、を、授、け、ま、ま、一、此、故、に、
一、女、下、の、深、く、は、能、能、一、ま、ま、
は、ま、ま、一、一、女、下、の、以、ち、ま、ま、一、係、る、

党派の消長よきならず、帝國の
前途の運命よきならず、**帝國**
運命の爲めよきならず、**帝國**
國の以て安んずべき如き時勢よ
安んずべき時、**深**く党々名利の喧嘩
は**國運**の興衰と共なる事にして、
ざるものよきならず、**方**々その
道よきならず、**執**るもの
理理の如き

屋外安んずの乾坤こそ彼を
皇朝の棲息をよきならず、**一**
は安んずて其の消息よき傾念よく、**東**
洋よける、**帝國**を世界よき
帝國の位をよき、**向**つて
所をよき、**從**こそよき
よき安んず

よき安んずが、**帝國**議會のよき

して 帝國の境を正準と解
新しむるものよきとす
此して正準の改議よきと正準不
らざるの改議を以て 國家の政を布くは
善く國を礼し民を養ふに非ざる
ものよし現しむるが 帝國は議會
系保つて實に國家の政事を
廢したるものよし現しむる 吾儕の党備

吾理の風儀は唯して 内政の
改とあり 起るに隨て糾れ糾る
に隨りて起る喧る暴る 利慾唯だ
終極として毫も未だ 國運の進路
に入らば此の如くよしとは 竟棄し唯だ
其を去れ湯島も唯だ 大息をよめるか
天下ありし終焉の十九紀の 改議
を 日本帝國とすを 深くは考へ

此の如く 下下が志す 陛下の奉
— 玉ふたのさと 國家の教ひ玉ふたの
の理は靡れどとして 下下の業職
を蔽ひまるといふ事なき 下下ありし
よの盡れ肯の盡る時の 律をきまめて
が 帝國の境をいふ事ある 大交心を
以て成り 遂にそふ事 個の有志は
招かして 下下の心算をいふ 傾回し



下下は老後の事念は永く有せ
のたし毛揚をることとまほきありし
美一然らばして 個を党争の鑑み
事とを汎強の移し玉ふとあらば
下下の内政を 換傷をいふの具は
此れ美事の問に 堆積うはせむか
帝國の財政は 實に不安の彷徨
— 國民の経済は 産業を被滅の旨

と素乱を極め軍備弛緩あつて
徒ら器具を弄し教育空しくあつ
て風俗の悖類し内政の或
は貴人の跋扈の比例して下降し
命令訓儀を埋め命令修飾を擧
がる此の如くして帝國の運命
を制し國權を宇内を推りまゐ
るとは是れと平して望むべからざる哉



と存せし小生不似と雖も格別の眷
遇を 天下の衆より常に富貴の冊
心を披瀝して迷河を越けむ今更
國を改するの大命を臨んで慷慨と
む能はば敢て馬鉄を願ひて厚く
恩を授けたまはる我は是れ方心
深し悔しうの上の考考を後
叩頭して祈る所を告ぐ小生是れ

道政、大業と伍するを好まば故に
公て誤を道政の善たることとす
唯だ尊信の國老の善なる可に
を云上流をよるべきざるをいしす可也
しと世必命を以須ふとす可也
有徳有、上徳有云

十の六の

杉山英丸の

伯耆大隈を以て



蘇州府長洲縣內
蘇州府長洲縣內
蘇州府長洲縣內

蘇州府長洲縣內
蘇州府長洲縣內
蘇州府長洲縣內



蘇州府長洲縣內
蘇州府長洲縣內
蘇州府長洲縣內

多松正申ハテ極ホテのし書也

不

丁ノ九

松山丸

の字